

## 誓いの言葉

学長先生をはじめ、諸先生方、大学関係者の皆様、本日はこのような素晴らしい入学式を挙げていただき、心より感謝申し上げます。

御来賓の皆様におかれましては、お忙しい中、御臨席と、温かなお言葉を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

さて、私はこれまで、小児科医として臨床業務に従事して参りました。一人ひとりの子供を診療していく中で、人集団を対象とする社会健康医学の必要性を日々感じています。

例えば、生活習慣病は、成人のみならず、小児においても、大きな課題となっています。子供の頃に身に着けた生活習慣や健康状態が大人になっても引き継がれることを考えれば、小児期からの対応が重要であるのは自然なことです。

また、多くの子供たちが、事故で怪我を負い、病院を受診しています。予めリスクを予測して対応できれば、子供たちが事故に遭うことを防げます。社会全体が協力して事故予防に取り組む必要があります。

私は障害児医療にも携わっております。先天的に、あるいは後天的に発症した、様々な基礎疾患を抱えて生きる子供たちがいます。彼らが健やかに成長していけるよう環境を整備するのは、大切なことです。

目下、新型コロナウイルス感染症は、私達に深刻な衝撃を与えています。小児においては、感染者への直接的なダメージはもちろん、社会を取り巻くストレスや不安が子供たちに影響を及ぼしていることが懸念されます。

このように、いま、小児医療の分野においても、社会健康医学の実践が求められています。本学では、伝統的な公衆衛生学に加え、ゲノム医学や聴覚言語学、医療ビッグデータ解析などの先進的な領域を学びます。私の目標は、本学での専門的な学びとこれまでの臨床経験を基に、小児医療現場での具体的課題や学術研究に取り組むことです。それにより、小児の、ひいては社会全体の公衆衛生向上に寄与していきたいと考えております。

私達新入生は、社会健康医学の学識を身に着け、医療・保健・福祉に貢献することを希求し、今日、本学に入学いたしました。よって、宣誓します。私達は、初心である今の志を忘れず、百折不撓の精神で真摯に学業・研究に精励することを、ここに誓います。

令和三年四月三日 新入生代表 今市 悠太郎